危機管理・建設交通常任委員会　管内調査
令和２年 11 月 26 日（木曜日）から 27 日（金曜日）

１　大野ダム総合管理事務所［於：大野ダムビジターセンター］（南丹市）

【調査事項】ダムの事前放流による治水対策について

【調査目的】
　大雨が想定される場合、あらかじめダム湖の水位を下げておく「事前放流」の運用の状況等について調査する。

【調査内容】
　大野ダムでは、台風等による大雨に備え、異常洪水時防災操作（緊急放流）への移行リスクを低減又は遅延させることを目的とした事前放流を実施している。洪水時に貯めることができる貯水容量を確保し、下流域の浸水被害を低減する狙いがある。
　事前放流目標水位については、管理施設等への影響を確認する実証実験を行いながら段階的に下げることとしている。従来の貯水位は155メートルだったところ、令和２年８月の台風期前には153メートルに下げる暫定運用を開始したところである。
　また、令和２年10月には貯水位を150メートルに下げる実証実験を行い、来年度の出水期を目処に、新たに約180万トンの洪水調節容量を確保する本格運用を目指している。
　そのほか、ダムの状況の情報発信については、地域住民や河川の利用者が危険を直感的に理解いただけるよう、ホームページの表示を工夫し、危険度レベルに応じてカラー表示に変更するなど、より分かりやすくなるよう改善を図っているとのことだった。

【主な質問事項】
・利水（発電）の状況について
・事前放流の実施決定について
・地域住民への情報発信について
・長寿命化のための取組について　　など

調査事項を聴取

施設を視察

２　中丹西土木事務所（福知山市）

【調査事項】由良川流域の治水対策について

【調査目的】
　弘法川と法川流域の浸水被害の軽減に向けた、福知山市域における総合的な治水対策の進捗等について調査する。

【調査内容】
　福知山市においては、弘法川や法川の溢水や福知山市街地での内水等により、近年では、平成16年や25年、26年に荒河地域等で浸水被害が発生した。特に平成26年８月豪雨では、弘法川及び法川流域において浸水被害が発生し、福知山市街地においては、広範囲に浸水が発生する事態となった。
　そこで、国土交通省、京都府、福知山市が協議会を設置し、由良川本川の整備状況を踏まえつつ、総合的な治水対策を実施してきた。京都府においては、弘法川、法川の外水氾濫の被害軽減を図るための河川改修と、由良川本川の樋門が閉鎖することにより生じる内水被害の軽減を図るため、貯留施設と排水ポンプ等を整備する役割を担っている。具体的には、弘法川、法川の2.2km の河川改修に加え、国の荒河排水機場の付近に新荒河排水機場として毎秒11㎥の排水ポンプを新設した。また、荒河調節池として20万㎥の容量を確保している。
　福知山市域における総合的な治水対策については、令和２年の出水期前の５月末で整備が概ね完了しており、これによって、平成26年８月豪雨と同規模の降雨があった場合でも、床上浸水被害を概ね防止できるとのことだった。

【主な質問事項】
・内水氾濫への対策について
・調節池の規模の算出について
・住民の避難意識の向上のための取組について
・排水ポンプ車の運用について　　など

調査事項を聴取

新荒河排水機場を視察

３　商工労働観光部・建設交通部港湾局〔於：第２ふ頭旅客ターミナル〕（舞鶴市）

【調査事項】京都舞鶴港の整備状況について

【調査目的】
　日本海側拠点港として人流や物流のゲートウェイを目指す、京都舞鶴港の整備状況等を調査する。

【調査内容】
　同港が日本海側ゲートウェイとしての役割を果たすため、人流・物流機能の強化が推進されている。
　令和２年７月には、経済界や港湾利用者からなる「京都舞鶴港振興促進協議会」が設立され、同港を関西圏北部の産業振興を図る重要拠点として位置づけ、港湾施設の利用を促進する上での諸問題の解決を図り、地域経済の発展に寄与することとしている。
　同港の物流に関しては、舞鶴国際ふ頭の海上コンテナ機能を強化するため、第Ⅱ期整備の着手に向けた調査が推進されている。また、臨海道路上安久線や和田下福井線の工事など、周辺の道路整備が順次進められている。
　さらに、人流に関しては、第２ふ頭の旅客船ふ頭化を目指し、貨物上屋を旅客ターミナルへ改修する工事を令和２年度中の完成に向けて進めているところである。
　なお、令和２年９月からは日韓露国際フェリー航路が新規開設され、京都舞鶴港初の直行国際フェリー航路が実現したことで、取扱貨物の範囲が広がり、貿易の利便性が向上したとのことだった。

【主な質問事項】
・クルーズ船の状況について
・国との連携について
・競合している港について　　など

調査事項を聴取

第２ふ頭の工事現場を視察

４　WILLER TRAINS 株式会社〔於：天橋立ターミナルセンター〕（宮津市）

【調査事項】コロナ禍における京都丹後鉄道の取組について

【調査目的】
　新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りつつ、安心・安全に公共交通機関を利用できるようにするための同社の取組について調査する。

【調査内容】
　京都丹後鉄道では、観光列車の丹後くろまつ号及び丹後あかまつ号における新型コロナウイルス感染予防対策として、予約定員を30席から20席に変更し、乗車時には乗客の検温を実施するなど、安心して利用いただくための対策を講じている。
　利用者の数は徐々に回復の兆しが見られ、Go To トラベルのキャンペーンの影響により観光客が戻りつつある中、移動はマイカーを利用し、観光の一部として観光列車に御乗車いただく方も増えている。丹後くろまつ号及び丹後あかまつ号は予約定員・運行日を減らして乗車券を販売しているものの、乗車率は回復傾向にある。
　府では、令和２年度９月補正予算において予算を確保し、京都丹後鉄道の観光列車の魅力向上のための車両改良や運行確保につながる取組を支援しており、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、地域公共交通の安心・安全な車内環境や運行を確保していくとのことだった。

【主な質問事項】
・通学客を対象にした感染防止策について
・府からの支援の充実について
・利用者の回復に向けた取組について
・社員の体調管理について　　など

あおまつの車両を視察

調査事項を聴取